【連宮万針3】研修刀!				【計画名	5年】A: 大さく上回る B: 上回る B: 依ね達成 D: やや下回る E: 下回る
[基本方向]関係機関・団体と協力した新規就農者や6次産業化による経営発展を目指す農業者等、多様なニーズに対応できる研修体制づくり					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
1 農業理解の促 進から新規就農者 の定着まで幅広い	率:80% (2)林業研修参加率:80%	① 段階に応じた研修の実施(継続) 就農を志す人を対象に、段階(動機づけ~準備~就農~経営発展)に応じた研修を実施する。	<ul> <li>動機づけ段階として対象年齢別の「親と子の農業教室(小学生)」(10組25名)「農林業体験教室(中学生)」(62名)「オープンキャンパス(高校生)」(217名)「園芸教室(一般)」(49名)の各研修を実施した。</li> <li>・職場体験学習として最上地域の中学生や高校生を受け入れた。県内の高校からは学年単位での視察研修の来校があり、本校の学習内容等を紹介した。</li> <li>・就農準備段階として「新規就農支援研修(新規就農希望者対象の1年間の研修)」(34名)と、「働きながら学ぶ農業入門講座(就農希望の他産業従事者対象)」(79名)を実施した。</li> <li>・就農定着・発展段階として、経営力向上のための「農業経営力レベルアップ講座(パソコンでの複式簿記)」(29名)と、「経営力養成基礎講座(経営計画作成演習)」(17名)を実施した。</li> </ul>	<ul> <li>・働きながら学ぶ農業入門講座:69%</li> <li>・農業経営力養成基礎講座:100%</li> <li>・農業経営力レベルアップ講座):90%</li> <li>(2)林業研修参加</li> </ul>	<ul> <li>・小中学生や一般県民には、農林大学校と農林業への理解を深めてもらうことができ、各研修の実施内容も好評であった。また、オープンキャンパスでは、参加者が志望学科の学習内容等を直接確認した上で、本校に入校している。中学生や高校生の職場体験では、各学科における体験学習をとおして、農林大学校や農林業への理解を深めてもらっている。次年度も積極的に受け入れている。</li> <li>・今年度から開催した「農林大学校キャンパスツアー」では、各学科のカリキュラスや卒業論文の取組み、施設・圃場、学生寮等を紹介した。農林大学校への関心を高めてもらうきっかけとなった。</li> <li>・新規就農支援研修修了生は、マスターコースへの継続研修希望者(3名)を除金員が就農予定となっている。今後の定着をフォローするとともに、次年度のカリキュラムでは経営計画策定等就農に関する内容を増やす。働きながら学ぶ農業入門講座は幅広い層の参加があるが、本講座を通した新規就農への誘導を促す必要がある</li> <li>・農業経営力養成基礎講座は、経営計画等の策定の講座で好評であり、引き続き就農初期段階の農業者を中心に実施する。</li> <li>・農業経営力レベルアップ講座は参加者が多い。簿記記帳の講座であり継続した取組みが必要なことから、農業技術普及課と連携した取組みが必要。</li> </ul>
		② 林業就業者等を対象とした研修の実施(継続) 新規林業従事者等対象に、林業に関する研修 を実施し、多様な担い手を対象とした研修を実施 する。また、高校生を対象に、林業の業務内容や 森林整備の必要性、刈払機やチェーンソー操作 に関する研修を実施する。	<ul> <li>森林関係を選択科目としている高校を訪問し、「林業実践校サポート支援研修」を実施した。また、新たに林業への従事や林業経営に取り組もうとする森林所有者等を対象として「森林経営者養成講座」を開講し、基本的な森林・林業に関する知識・技術研修を実施した。</li> </ul>	率・・・B ・林業経営者養成 講座:87%	<ul><li>・研修実施をとおして、高校生の森林や林業への関心が高まった。また、林業役事者の安全作業に対する認識が高まった。</li><li>・本研修では、初心者が刈り払い機やチェーンソーを取り扱うことから、次年度以降も、より一層のリスクマネジメントに努めながら実施する。</li></ul>
2 6次産業化や新分野導入等、農業者の経営力向上に向けた研修の充実		① 6次産業化や新分野導入等への支援(継続) 6次産業導入等を目指す農業者に対して は、「農業ビジネス支援研修」により農産加 工の基礎からスキルアップにつながる講座を 実施する。	<ul><li>加工部門開始を目指す農業者等を対象に「農産加工コース」の講座を実施した。</li><li>酪農家等の6次産業化を支援する「チーズ加工研修」を実施した。</li></ul>	(1) 研修参加率 ・・・B ・農業ビジネス支援 研修:100% ・アグリウーマン塾: 96%	<ul><li>・「農産加工コース」の受講者は各種実習の参加率も高く、意欲的に研修に取り組んだ。今後各自の本格的な加工開始にあたっては、関係機関と連携しながら支援していく必要がある。</li><li>・「チーズ加工研修」は、校内に「乳製品加工施設」が新たに設置されることから、乳製品加工研修として基礎から製造・販売までを含め、内容を充実させながら実施する予定。</li></ul>
		② 女性農業者の育成支援(継続) 開講3年目となる「アグリウーマン塾」では、事業 展開を目指す女性農業者を支援する。	<ul> <li>「アグリウーマン塾」は17名が受講し、全5回での講義、 演習、現地研修に加え、希望制のインターンシップ研修 や個別相談会を行い、実践力と経営力の習得・強化を支 援している。受講者は、ビジネスプランを作成し発表し</li> <li>た。 昨年度受講生を対象に、フォローアップ研修会を実施し</li> </ul>	<ul><li>・やまがた農業経営 塾:90%</li><li>(2)修了率</li><li>・・・B</li></ul>	<ul><li>・塾における課題への取り組みや参加者同士の意見交換を通して、受講生の意欲向上が顕著である。普段孤立しがちな若手女性農業者の交流にも繋がっている。</li><li>・受講者の家庭事情による欠席や受講の途中辞退者がおり、各農業技術普及認と連携し受講者の選定や出席率向上に向けた取り組みを行う必要がある。</li></ul>
		③ 企業経営体の育成支援「やまがた農業経営塾」の実施(継続) 本県農業を牽引していく、優れた経営感覚を備えたスーパートップランナー(生産力の高い企業的な農業経営を展開する経営体)の育成のため、「やまがた農業経営塾」を開塾し、より高度な経営学を学ぶための塾を実施する。	・「やまがた農業経営塾」は15名が受講し、全12回の講座で、先進事例調査、事業計画策定手法、商談会への出展を通じ販売戦略についても講座を実施した。また、専門家による事業計画へのコンサルティングを実施し、経営発展のための事業計画策定、発表を行ってきた。・1期生を対象にしたフォローアップ研修を実施し、事業計画の目標の進捗状況について報告された。	・農業ビジネス支援 研修:100%	<ul> <li>・受講者(修了者)は県内各地から15名となった。経営理念、事業計画、投資計画等の策定を通じ、経営発展への理解が深まったと好評であった。</li> <li>・1期生へのフォローアップ研修会では、農業法人の設立や農家レストランを開業した報告もあり、研修成果が見られるようになった。</li> </ul>
自己評価				1	評価

## 自己評価

- 就農段階に応じた研修は、対象ごとにきめ細かく実施し、参加者の農林業に対する理解を深めることができた。
- 今年度から高校生向けの「農林大学校キャンパスツアー」を開催し、本校への理解促進を図り、将来の本県農林業担い手育成に取り組んだ。来年度も農業高校等と連携しながら参加校を増やし、内容の拡充を図る。
- 新規就農支援研修受講者には、就農定着が図られるよう、関係機関・団体と連携し、フォローアップを行っていく。
- ・ 今年度2年目となる「やまがた農業経営塾」においては、受講者は意欲的に参加し、好評だった。1期生には、新たな事業展開に取り組む農御者もおり、成果が見られる。今後、受講者の要望等を把握し、次年度の改善に生かしていく。

## 評価

В

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策

- 「働きながら学ぶ農業入門講座」の受講者は、修了後に就農しているか。→当講座は、日中、会社等に勤めている方を対象に夜間開催している。受講者は、兼業農家で親から経営を引き継ぐために受講する場合が多く、就農に結びついている。
- 「アグリウーマン塾」は受講者から好評だが、村山地域で開催するため、家庭や学校行事の都合で参加できない場合があるので、県内各地域での開催を希望したい。→当塾の受講者からは、研修を受けてモチベーションが上がった、他地域の方と交流し実情を知って経営の参考になった等の感想をいただいている。各地域で開催することは難しいが、受講者や修了者には地元の農業技術普及課等と連携してフォローアップしていきたい。
- ・ ①オープンキャンパスと②キャンパスツアーの違いは何か。→①は夏休み期間、本校受験予定の高校生や保護者を対象に、志望学科での体験学習等を開催している。②は、高校生1・2年生を対象に、進路決定する前段で本校の学校生活に触れてもらい、本校や農林業への理解促進を目的に開催している。

## 評価

В